

心と心、笑顔のリレー

2019年4月発行

VOL.

18

たすき

TASUKI

新院長
ごあいさつ

存在感のある 病院をめざします



安心して任せられる、質の高い脳卒中チームを目指して

【脳神経外科】

かかりつけ医である地域の医療機関の
先生方にご利用いただく為の専用病床

開放型病床開設



社会福祉法人 済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/>

〒931-8533 富山市楠木33番地1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
医療福祉支援センター
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131



Japan Council
for
Quality
Health
Care
日本医療機能評価機構

新 院 長 ご あ い さ つ

存在感のある 病院をめざします



富山県済生会富山病院 院長 堀江幸男

このたび4月1日付で井上博先生の後任として院長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

私が済生会富山病院に赴任したのは昭和61年11月で、当時の金山隆一院長から「頑張っ、病院を盛り上げるように」と訓示を受けたことが、懐かしく思い起こされます。富山市中心部の安住町から現在地(富山市楠木)への新築移転は、平成9年1月1日でした。その後、歴代院長(辻政彦先生、利波紀久先生、三崎拓郎先生、井上博先生)の主導のもと、診療科(皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、循環器内科、神経内科、消化器内科、歯科口腔外科、消化器外科、糖尿病内分泌内科)の増設や領域・臓器別センター化(健康管理、消化器内視鏡、脳卒中センター、人工関節)、さらに病棟機能の転換や訪問看護ステーションの開設などが行われ、富山医療圏北部地域の中核病院として重要な役割を担ってきました。

さて昨今、少子高齢化に伴う社会構造の激変が迫る中、「地域医療構想」の策定や、「地域包括ケアシステム」の構築も開始され、医療機関相互の機能分化と連携がこれまでも増して求められています。

本院の有する機能別病床数は、脳卒中ケアユニット(SCU)【高度急性期】6床、急性期一般【急性期】194床、地域包括ケア病棟【回復期】50床です。高度急性期～急性期の機能として、診療時間内の救急患者の受け入れに加え、富山医療圏内での病院群輪番制病院として第二次救急医療を担っています。またSCUを附設する県内唯一の病院として、平成19年以降24時間365日体制で脳卒中急性期の治療に力を尽くしてきました。回復期の機能として、平成28年に急性期病床から転換した地域包括ケア病棟と平成29年に新設した訪問看護ステーションを活用し、在宅への復帰の支援を行っています。

地域包括ケアシステムがめざすAging in place(住み慣れた地域で豊かに老いる)を叶えるためには、5つの視点 1) 医療、2) 介護、3) 予防、4) 生活支援、5) 住まい での取り組みが日常生活圏域において継続的かつ包括的に行われることが必須である、と言われています。私たちは医療関係者や介護職との連携を推進し、地域住民の健康寿命の延伸と健康障害を抱える人々の生活の質向上に、少しでもお役に立ちたいと思っています。

「ワンランク上を目指そう!」をスローガンに、患者さんに頼られる病院、地域になくてはならない病院、そして職員にとって働きがいのある病院、そのような存在感のある病院をめざします。



後列左から、高副院長、古井脳卒中内科部長、岡本部長、加茂医員
 前列左から、浜田医員、堀江院長、久保主任部長

安心して任せられる、質の高い脳卒中チームを目指して

【脳神経外科】

脳神経外科・外来担当表

	月	火	水	木	金
第一診	高	久保	浜田	田口 (午後:神経内科)	久保
第二診	古井	古井	加茂	岡本	岡本
第三診	堀江	堀江	高	久保	堀江
午後診	古井	堀江	高	久保・岡本	岡本
専門外来	脳卒中再発 予防外来 (古井 14-16時)	頭痛外来 (古井 14-16時)		脳血管内 治療外来 (久保 14-16時)	

当院における脳神経外科診療の特徴は、(1)「3つのメス」を使い分けていること、(2)多職種チームによる脳卒中医療が行き届いていること、(3) 24時間365日体制で脳卒中救急患者の受け入れを行っていること、の3点に絞ることができます。

1番目の「3つのメス」というのは、手術用の顕微鏡を使って行うマイクロサージェリーを中心とした直達手術(実際に切って行う手術)、カテーテルを使用した脳血管内治療、点滴や注射など薬による治療の3つを、メスを扱うように厳しい視点で用いて治療を行っているという意味です。点滴注射や内服薬のことを「メス」と言うとピンと来ないかも知れませんが、われわれは急性期脳卒中の患者さんの病態を可及的早期に見極めて、その病態に最も適した薬剤を厳しく選択して、あたかもメスのように用いて治療や再発予防に取り組んでいます。

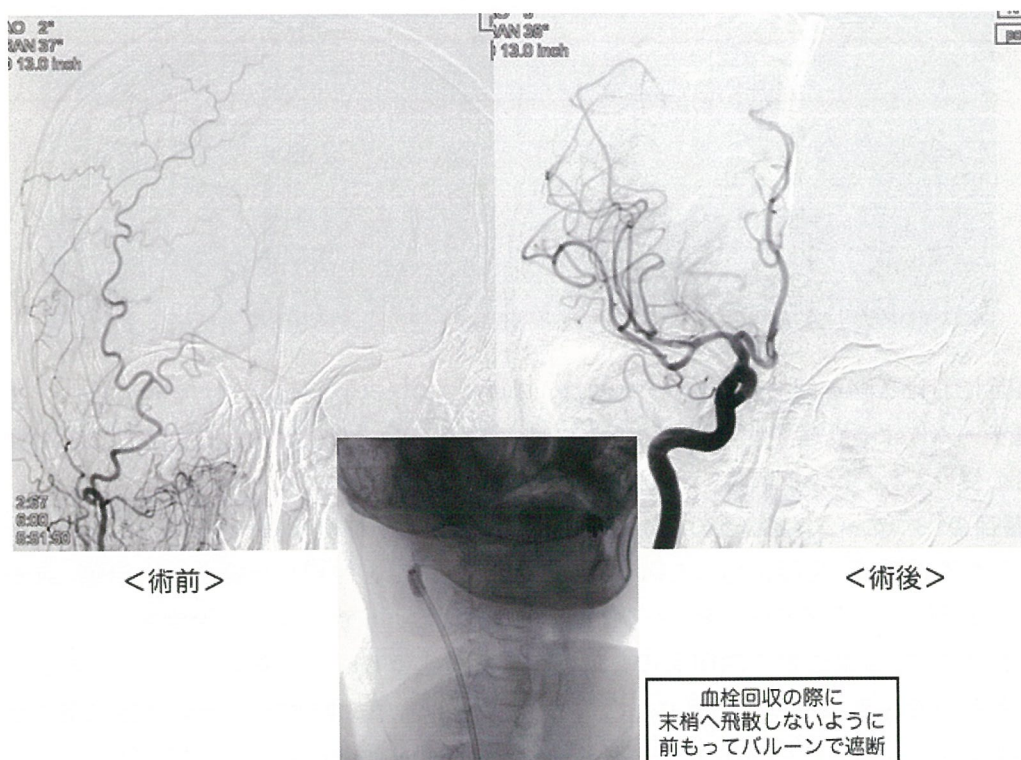
2番目の多職種チーム医療は、医師をリーダーとして、看護師・リハビリテーション療法士・薬剤師・栄養士・医療ソーシャルワーカーが、それぞれの専門領域における最新の英知を出し合って治療に取り組んでいる点です。毎朝、重症患者を対象とした多職種カンファレンスを行って、病棟回診もまた多職種で行なっています。また、それぞれの職種の専門領域における最新の話題を交代でレクチャーし合っているため、職種間の相互理解が十分にできており、チームワークは抜群です。このため、時間を争う疾患の患者が搬入された時にこそ、役割分担が十分に行き届いて、ハートの面でも一致団結した力が発揮されます。

3番目の脳卒中救急患者の受け入れは、2007年4月から開始したもので、すでに13年目になります。当院は、脳卒中ケアユニット（SCU）を有する県内で唯一の病院です。SCUでは、急性期脳卒中患者の中でも、重症であったり、病状が不安定であったり、術後間もない状態であったりする場合には、多職種のパワーを集中させて管理を行う病室です。

急性期脳卒中をはじめとする脳血管疾患に立ち向かう医師は、脳神経外科（6名）と脳卒中内科（1名）の合計7名です。専門医資格も、脳神経外科専門医4名、脳卒中専門医4名、脳血管内治療 指導医1名+専門医3名、神経内科専門医1名がそれぞれ持っており、充実したメンバー構成です。富山大学脳神経外科講座のバックアップを受けながら、将来の富山県の脳卒中診療を担う若手医師の育成にも力を入れています。

外来診療は、2019年4月から別表のように担当医師の一部変更があります。（午後診も行なっています。）かかりつけ医の先生方からのご紹介の場合には、オンライン予約システムも進めており、脳卒中ホットラインのご活用も含めて、緊急度に合わせて対応させていただいております。

さて、当院では2018年の1年間に救急搬入された46例の急性期脳梗塞患者に対して組織プラスミノゲンアクチベーター（t-PA）静注療法を行ないました。また当院へ救急搬入された急性期脳梗塞患者12例の患者（院内発症除く）に対してカテーテル血栓回収療法も行なっています。時間を争う急性期脳梗塞患者搬入の現場こそ、当院の多職種チーム力を最も発揮できる場面です。



代表的な症例を呈示します。

60歳代女性。左上下肢完全麻痺と構音障害で発症。心房細動による右内頸動脈閉塞症（心原性脳塞栓症）と診断。t-PA静注療法を開始しながら、カテーテル血栓回収療法を進め、閉塞した血管は完全再開通いたしました。急性期脳梗塞は1分でも早く再開通した方が良い成績を得られることから、まさに時間を争う状況にあったと考えられます。この症例では、高いチームワークと「1分でも早く再開通を」という想いを一つに結集することができ、カテーテルを入れるための穿刺から35分間で再開通することができました。じきに独歩可能となり、手の巧緻運動障害に対するリハビリテーション目的で転院しました。

安心して任せられる、質の高い脳卒中チームを目指して、日々研鑽を積んでおりますので、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

（文責：久保道也）

開放型病床開設

平成30年11月より開放型病床を開設致しました。かかりつけ医である地域の医療機関の先生方（富山市医師会・滑川市医師会・中新川郡医師会所属の登録医）にご利用いただく為の専用病床です。当院の医師と共同診療を行っていただくことにより、患者さんにより良い医療を提供することができます。当院は、開放型病床を5床設けております。開放型病床をご利用の際は、予め当院への「登録医手続き」が必要です。

【登録医になる為の手続き】

- ①「登録医申請書」を医療福祉支援センターへ提出してください。
- ②各医師会へ登録の推薦印を受けたうえ、当院の病院長に提出し申請を行います。
- ③手続きが完了後に「登録医証明書」を交付します。

ご連絡をいただければ「登録医申請書」は医療福祉支援センターからお送りいたします。また、ホームページからダウンロードも可能です。

ぜひ、当院の開放型病床をご活用ください。

ご不明な点は、医療福祉支援センター ☎076-437-1120 までお問合せください。



開放型病床開設に伴い、『たすき』を隔月発行とし、主に医療機関向けとしました。

当院にご紹介いただく先生方へ……

医療福祉支援センターでは、ご紹介頂く患者さんの診察予約、検査予約を行っております。予約を行うことで、診療手続きが簡素化され、速やかな診察が可能となります。

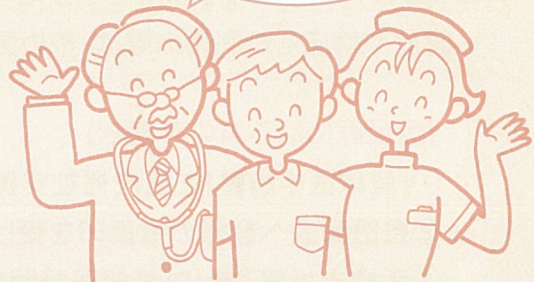
診察予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
(直接、診察申込書をFAXしていただいても結構です。)
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
※医療福祉支援センターで判断ができない場合は担当医師に確認が必要なため、相談の上、予約させていただきます。
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しく下さい。

検査予約の流れ

- 1 医療福祉支援センターへお電話ください。**
- 2 医療福祉支援センターで直接予約をお取りします。**
- 3 診察申込書をFAXください。**
確認、登録の上、予約票をFAXいたしますので、患者さんへお渡しく下さい。

検査予約枠を
拡大しました。
お電話お待ちしております。



検査予約時間	CT	心臓CT
	10:00~11:30 13:30~16:30	月 14:00~15:00
RI	8:30~11:30 13:30~16:30	火 14:00~14:30 水 14:00~15:00
MRI	13:30~16:30	木 14:00~14:30 金 14:00~15:00

※造影検査に限り、水曜日は予約不可となりますので、ご了承ください。

富山県済生会富山病院 医療福祉支援センター

〒931-8533 富山市楠木33番地1 TEL 076-437-1120(直通) FAX 076-437-1131(直通)

理念 患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

基本方針

1. 地域中核病院として、地域に密着した信頼される患者さん本位の医療の提供に努めます。
2. 済生会精神に基づく保健・医療・福祉の総合的なサービスを目指します。
3. 医療水準の向上に努め、良質で安全な医療を提供します。
4. 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療の提供に努めます。
5. 効率的で安定した経営基盤の確立に努めます。

患者さんの権利宣言

本院では“患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供”を基本理念に、患者の皆さまと協同して最良の医療を提供できるよう以下の権利を尊重します。

1. 個人としてその人格を尊重される権利
2. 質の高い医療を公平に受ける権利
3. 十分な情報を知り、説明を受ける権利
4. 選択の自由と自己決定する権利
5. プライバシーが守られる権利